



令和3年8月7日

ふるさと教育

【地域課題探究型学習推進事業】

## 笠原川で自作の竹かごを使った自然再生を始めました！

2020年度から2年生の総合的な探究の時間に笠原川で小さな自然再生に取り組んでいます [https://school.gifu-net.ed.jp/tajimi-hs/26\\_furusato/20200808.pdf](https://school.gifu-net.ed.jp/tajimi-hs/26_furusato/20200808.pdf)。昨年度までの取り組みで、川に多様な流れを生み出すように石を積むことによって魚の個体数が増えることが分かりました。一方で、石を積んでから1年も経つと、積んだ石積みが崩れてしまい、一様な川の流れに戻ってしまうことも分かりました。そこで今年度は、多治見高校生が竹かごを作り、その中に石を積み、耐久性を高める取り組みを始めました。



各班の狙いごとに竹かごを作りました。



かごを設置する前に物理的環境も調べます。

7月30日に笠原川で魚類調査と竹かごの設置を行いました。まず初めに竹かごを設置する前の魚の種類数、個体数、水深や流速を計測しました。その後、竹籠を設置しました。今後は9月上旬、10月上旬に上記の調査項目を再調査し、竹かごの効果を検証します。



絶滅危惧Ⅱ類のアカザ（左）とメダカ（右）も生息していました。

<生徒の感想>

私たちの班では、昨年先輩方の活動結果からオイカワが生息しやすい環境を作り、オイカワの個体数を増やしたいと考えました。オイカワは浅瀬で砂の多いところを好んで産卵するので、竹かごの中に砂が溜まるような工夫をしました。また、オイカワは囲いがある空間を好むとも言われており、大きめのカゴにして囲いを作りました。オイカワが産卵し、稚魚が増えることを願っています（2年生 女子）。

竹かごを置く前の調査では意外にもカマツカやカワヨシノボリの個体数が少なかったため、それらが生息しやすいように竹かごで川の流れを弱める区間を作りました。1か月後には竹かごの上流部に砂や小石が堆積し、それらの魚の住み家になることを期待しています（2年生男子）。

本活動は、多治見ロータリークラブ、河川基金、多治見市土岐川観察館、たじみの自然展実行委員会、土木研究所自然共生研究センターの支援を受けて実施しています。ご支援ありがとうございます。

担当：山岡隆太・佐賀達矢